

展示にあたって

あなたの生活で本は身近な存在ですか？長い歴史の中で言語や文字は進化し、やがて書物という形へ発展しました。そして書物は今日でも私達に情報や知識、コミュニケーションといった様々な事を伝える媒体となっています。

紀元前4000年頃メソポタミアでの象形文字に始まった情報伝達の歴史は水草の一種で作ったパピルス、粘土、布など紙以外のものへの文字の記録となりました。西暦105年頃中国の蔡倫（ツアイルン）が紙を発明したといわれており、紙の製法はシルクロードなどを経て世界中に普及していきました。7～8世紀頃中国で木版印刷が始まり、15世紀中頃にグーテンベルグが発明した活版印刷によって紙+印刷=書物という形で飛躍的に普及しました。書物の普及には宗教の存在も不可欠なものでした。今回付属図書館所蔵の中から宗教に関係する古代文明での文字遺産や百万塔陀羅尼、摺仏といった貴重な資料もご紹介いたします。又技術の発展に伴い書物自体の内容だけでなく美術的価値のある本も生み出されており、そのような資料もあわせて展示しました。

多様化する情報、通信手段の昨今ですが、この展示を通して文字や書物の歴史を感じ、改めて書物を身近なものとして見直すきっかけとなれば幸いです。

＜展示目録＞

Pt.1

- 古代の印字法との素材 No.1～22
- 活版印刷時代 No.23～24
- 科学・技術の古典 No.25～30
- 様々な装丁（洋） No.31～36

Pt.2

- 日本における書物の文化史 No.37～50
- 江戸時代の本 No.51～58
- 様々な装丁（和） No.59～69

参考文献

- 鈴木敏夫著『プレ・グ-テンベルク時代：製紙・印刷・出版の黎明期』朝日新聞社, 1976
- 庄司浅水著『定本庄司浅水著作集』書誌篇 第7巻, 1977
- 庄司浅水著『本の文化史』新增補版 雪華社, 1977
- 庄司浅水著『日本の書物』美術出版社, 1978
- 日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』岩波書店, 1983-86
- 藤井隆著『日本古典書誌学総説』和泉書院, 1991
- ミズノプリンティングミュージアム編『プリンティングカルチャー：今、甦る文字と印刷の歴史』雄松堂書店（発売）, 1993
- 喜田庄著『西洋の書物工房』芳賀書店, 2000